臨床基本実習

科目責任者　豊　田　　茂
学年・学期　４学年・後期

Ⅰ．前　　文

系統講義で得られた知識は患者さんを目の前にした時にすぐに役立つとは限りません。CC(Clinical clarkship)では知識も重要ですが，患者さんの診察に際しての具体的な技能，および態度も身につけている必要があります。これからは CC へ出る前に必要な知識，技能，態度は全国共通の CBT（computer based testing），および OSCE（objective structured clinical examination）を用いて評価されることになります。この科目では CC を行う上での必要な態度，技能について実習を含めて行います。実習は全体を８グループに分けて行い，共用試験 OSCE に対応して医療面接，心音，肺音，救急蘇生，外科手技なども含まれます。実習前に自己学習を行い，実習の実があがることを期待します。

Ⅱ．担当科

各臨床講座

Ⅲ．一般学習目標

CC で必要な知識および診療基本技能，態度を身につける。

Ⅳ．学修の到達目標

１．患者・医師（学生）間の良好な関係を構築できる。
２．POMR に準じた診療録の作成，記録を行うことができる。
３．診察基本技能を実際に行うことができる。
４．レントゲンを中心とした基本的画像の読影を行うことができる。
５．心電図をとり，その判読ができる。
６．CBT 模擬試験の受験を必須とする。

Ⅴ．評価基準（成績評価の方法・基準）

・本実習は出席を重視する。なお，無断欠席のある場合は，不合格とすることがある。
・行動目標の達成度について OSCE で総合的に判断する。実習であり出席，態度も評価の対象とする。

Ⅵ．教科書・参考図書・ＡＶ資料

教科書：臨床基本実習サブノート
参考書：臨床実習開始前の「共用試験」（共用試験実施評価機構）

Ⅶ．質問への対応方法

原則として
①講義時に質問を受け付ける。
②後で質問がある場合はアポイントを取ること（原則として医局秘書を通じて）

四学年

Ⅷ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

＊◎：最も重点を置くDP　　○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	◎
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	◎
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

Ⅸ. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各講義の終了後に個々の質問を受け付け，その場でフィードバックする。

Ⅹ. 求められる事前学習，事後学習（カッコ内は所要時間の目安）

サブノートをもとに，事前に内容を確認し，更に各講義後に事後学習を行う。(60分)

Ⅺ. コアカリ記号・番号

G－1－1，G－3，G－4－4